

断り場面における電子メールの書き方の相違と言語転移

馬 云霏(京都大学大学院生)

1. はじめに

近年の日本では、日常生活において電子メールは通信手段として最も頻繁に使われている。電子メールによるメッセージの伝達は、知らせ、尋ね、依頼、断りなどが挙げられる。一方、中国では、WeChatやQQを皮切りに、多くの即時通信アプリケーションがあるため、電子メールによるメッセージの伝達はあまり多くない。また、日本のように電話番号は普通プライベート情報として扱うことなく、連絡手段として相互交換されていることが多い。学校の先生や職場の上司のような人に対しても、目上であるにもかかわらず、特に添付資料がなければ、SNSで連絡を取ることが多い。このように、中国と日本の電子メールには大きな異なりがあると思われる。

日本語学習者にとって、電子メールを用いて、相手に頼むこと、また相手からの要求を断ることも少なくない。その場合には、表現の選び方、展開の流れによって断りの理由に誤解を招く可能性もあると考えられる。しかし、中国ではあまり電子メールを書かない中国人日本語学習者は、日本にいればいるほど、日本の電子メールの書き方や礼儀に慣れることが多い。こうして、文化や慣習などが中国と異なる日本に長年滞在し、日本語に堪能な学習者が中国人対象に中国語でメールを書く際、滞在している国の言語、すなわち日本語の影響を受けることがある。そして、日本語がわからない中国人にとって、文章が不自然だと思われる場合もよく観察される。

中国語の場合は、当面や電話で断ることが多いが、メールで相手を断ることが少ない。筆者の親友と筆者自身も、その経験がある。日本にいるため、中国での同窓会に参加できず、友人に中国語でメールを転送してもらい、参加を断った。しかし、転送してくれた中国の友人は、私の中国語表現には不自然な所が多く、とてもおかしく読めると指摘した。筆者の親友も、彼女の親戚へのメールを中国にいる友人に見せたが、その友人はまるで外国人が書いたものだと指摘された。身内の人や親しい人の場合ならまだしも、あまり親しくない、または目上の相手にとって、表情が読み取れない文面上のやり取りでは、相手を誤解される恐れがある。そのため、失礼にならないように文章を送り、相手に遂行させる行為に細心の注意を払うことが必要とされる。

依頼の場面において、大友(2009)は、依頼を電子メールで行う場合には、その表現の選び方、展開の仕方が依頼の目的達成に影響を及ぼす可能性が、相手の対応に応じてそれらを考えることができる対面場面よりも高いと指摘している。このように、断りの場面は、依頼の相手側になるため、マナー正しく誤解のない返答が必要であると思われる。

そして、本研究の目的は、中長期日本に滞在する中国語を母語とする日本語学習者、日本語学習歴も滞日経験もない中国語母語話者、また日本語母語話者を対象に、親しい関係の人との断り場面を想定した電子メールにおけるメールの特徴、言語転移の実態とその原因を明らかにすることである。また、学習者の母語による影響と目標言語による影響、及び中間言語語用論の特徴はどのようなものであるかについても、第二言語習得の観点から考察し、その傾向を明らかにする。

2. 方法

2.1 協力者とデータ収集

本研究では、中長期日本滞在中国語母語・日本語学習者(日本滞在歴4年以上、日本語学習歴6年以上の大学院生)、中国語母語話者(大学院生)、日本語母語話者(大学院生)各15名(すべてのグループも、男性7名、女性8名)に、同じく親しい関係である上下関係が異なる二つの場面(親友の授業への誘い、自分の指導教員から懇親会参加への案内)を断ることを想定したメールの文章を、中国語母語・日本語学習者は日本語と中国語、中国語母語話者を中国語、日本語母語話者は日本語で作成してもらった。さらに、3グループの協力者から各5名を抽出し、深層インタビューを行い、その発話について分析を行った。調査は2017年9月で行った。

表1 2つの断り場面

・以下の二つの場面において、あなたは「とりあえずやりたくない」と想定し、メールで相手を断ってください。断る理由は、自分なりに想像すれば結構です。
1. 親しい友達は、あなたに一つの授業を一緒に取ることを誘った。
2. 親しい先生(あなたの指導教員や担任の先生)は、あなたに講座(ゼミ)の懇親会への参加を案内した。この懇親会は、講座長(分野長)も出席予定のため、あなたの先生はあなたにぜひ出席してほしい。

2.2 データの分析方法

中間言語は、第二言語及び外国語の学習者が言語を習得する過程で生み出す言語体系であり、また学習者の頭の中のシステムとして、時間の経過に伴って変化する、母語とも目標言語とも異なる過渡的、動的な言語体系として考えられている (Selinker, 1972)。つまり、中国人日本語学習者が電子メールによる断る行為を行う際に用いる戦略は典型的な中国語でもなく、典型的な日本語でもない可能性があると思われる。そこで、電子メールによる断る行為において、中国語メールと日本語メールの特徴と相違点、また中国語話者日本語学習者の逆行転移の実態を明らかにするために、上下関係を持たせた二つの設定場面を通し、日本語学習歴も日本滞在歴もゼロの中国語母語話者 (CNS) が電子メールで他人を断る際に用いる戦略と、日本語学習歴も日本滞在歴もある中国語話者日本語学習者 (JFL) が使用する戦略、及び日本語母語話者 (JNS) の戦略を整理し、それぞれを照らし合わせて分析する。

データの分析単位として、李 (2008) と大友 (2009) の分類、及び王・聞 (2015) が挙げている発話要素を参考にし、電子メールによる断る行為に見られる発話要素を表2のように18の要素に整理した。

表2 日中の電子メールにおける断る行為に見られる要素

発話要素	中国語例	日本語例
呼称	xx 同学 / 老师	～さん / 先生
挨拶	您好 / 老师好	こんにちは
名乗り	我是 xx	私は～です
導入	感谢来信	メールありがとうございます/ご連絡いただきありがとうございます
事情描写	关于你邮件说的这件事	要件ですが/XXX についてですが/
フェイス緩和①	非常光荣/我很想参加的	とても残念ですが/とてもうれしいですが/ぜひ参加したいのですが
詫び①	非常抱歉 / 实在不好意思	大変申し訳ありませんが/恐れ入りますが
詳しい事由	我匆匆生病了我要照顾她/我第二天要考试	次の日にテストがあるため、準備しなければなりません/ 休みが取れないため、アルバイトに行かなければなりません
曖昧な事由	我那天有点私事 / 我那天不太方便	私用があるため/都合により
拒絶	我想我不能参加了/我就不去了/我应该不可以了	出席できません/参加できません
遺憾	这么难得的机会真的太可惜/很遗憾	せっかく誘っていただきましたが
詫び②	真的很抱歉	本当に申し訳ございません。
相手の理解	希望得到您的谅解	ご理解のほどよろしく願いいたします
フェイス緩和②	下次一定参加	またチャンスがあればぜひ参加させてください/ チャンスがあればぜひお願いします
詫び③	再次表示抱歉	再びお詫び申し上げます
祝福	祝老师工作顺利 / 身体健康	先生のご健康をお祈りします/先生のご活躍をお祈りします
よろしく表現	今后也请多关照	どうぞよろしく願いいたします。
署名	xxx	xxx

3. データの分析

表2が示した発話要素に基づき、CNS, JFL, JNSの2のメールにおける18個の発話要素についての使用状況を集計した結果を統計した。表3, 表4は、CNS, JFL, JNSのメールのサンプルと分析方法を示したものである。

表3 中国語のサンプル(中国語母語話者と中国語話者日本語学習者の例)

中国語母語話者	中国語話者日本語学習者
<p>小A(呼称) 不好意思欸。(詫び①)我数学很差, 那门课对我来说太难了。(詳しい事由)我还是不修了。(拒絶)下次要是有机会再一起上其他的!(フェイス緩和②)不好意思哈。(詫び③) (CNS005)</p>	<p>小A(呼称) 下午好!(挨拶) 感谢你的来信!(導入) 关于你说选课这件事(事情描写), 我觉得我这学期课太多了, 有点吃不消。(詳しい事由)我看我这个学期就算了。(拒絶)不好意思啊。(詫び②)难得你邀请我, 我却不能一起上。(遺憾)下次有机会再一起选吧。(フェイス緩和②) XX(署名) (JFL007)</p>
<p>B 老师(呼称) 老师好。(挨拶)我是 XXX。(名乗り) 实在是很抱歉。(詫び①)那天是我匆匆的80岁生日, 全家人打算为她庆祝生日, 要到外面吃饭。(詳しい事由)因此我不能参加恩亲会了。(拒絶) 真的很对不起。(詫び②)请您谅解!(相手の理解)</p>	<p>B 老师(呼称) 老师好(挨拶), 我是 XXX。(名乗り) 感谢老师的通知。(導入) 关于恩亲会,(事情描写)非常抱歉。(詫び①)我想我不能参加了。(拒絶)因为第二天我正好要去参加一个面试, 因此需要好好的准备一下。(詳しい事由)错过这么难得的机</p>

XXX (署名) (CNS010)	会真的很遗憾。(遺憾) 同时希望能得到老师您的体谅。(相手の理解) 真的很对不起。(詫び②) 请您谅解!(相手の理解) 祝老师一切顺利!(祝福) XXX (署名) (JFL008)
----------------------	--

表4 日本語のサンプル(中国語話者日本語学習者と日本語母語話者の例)

中国語話者日本語学習者	日本語母語話者
A さん(呼称) 授業の件ですが、(事情描写) ごめんね。(詫び①) 今期は授業数が多いので、ちょっと難しい…(詳しい事由) また来期でおねがいします。(フェイス緩和②) (JFL003)	A ちゃん(呼称) メールありがとう!(導入) 誘ってくれてうれしいが、(フェイス緩和①) その時間帯はちょうどほかの授業があるから、(詳しい事由) 一緒に取れなくて、(拒絶) ごめんね!(詫び①) また今度は是非!(フェイス緩和②) (JNS005)
B 先生(呼称) ご連絡いただきましてありがとうございます。(導入) XX です。(名乗り) 懇親会をご案内いただき、誠にありがとうございます。(事情描写) 大変申し訳ないですが、(詫び①) 次の日に私用があって、曖昧な事由検定試験があるため、準備をしなければなりません。(詳しい事由) せっかくのチャンスですが、(遺憾) 今回の懇親会に参加することができません。(拒絶) 本当に申し訳ございません。(詫び②) またチャンスがあればぜひ参加させてください。(フェイス緩和②) どうぞよろしくお願ひいたします。(よろしく表現) XX (署名) (JFL003)	B 先生(呼称) お世話になっております。(導入) XX です。(名乗り) 懇親会のご案内、誠にありがとうございます。(事情描写) 大変残念ですが、(遺憾) 私用があるため、(曖昧な事由) 今回の懇親会を欠席させていただきます。(拒絶) またチャンスがあればぜひ参加させてください。(フェイス緩和②) どうぞよろしくお願ひいたします。(よろしく表現) XX (署名) (JNS006)

3.1 日中の断りメールの特徴

上記述べたデータを分析した結果、まず、上下関係によって、日本語学習歴もない滞日経験もない中国語母語話者(CNS)も日本語母語話者(JNS)も、ストラテジーの使い分けが存在する。具体的には、まず親しい友人の場合、CNSもJNSも、「挨拶」「名乗り」「導入」のような前置きを省くことがほとんどであるが、目上の先生に対してはきちんと揃えた書式で書くことが観察された。また、親しい友人に対して、CNSもJNSも詳しい事由と共に「直接断り」というようなポジティブ・ポライトネス・ストラテジーを多用するのに対して、同じく親しいではあるが、先生の場合において使い分けも見られる。具体的には、CNSがとても詳しい事由で相手に説明する傾向が多く(14名, 93.3%)、日本語母語話者はその理由をはっきり言えず、婉曲な言い方と共に「間接断り」などのネガティブ・ポライトネス・ストラテジーを好む(13名, 87.7%)ことを明らかにした。さらにインタビューから、以下のような発言があった。

嗯，必须讲清楚吧。不说具体的话老师应该觉得我没有理由，就只是不想去，感觉老师会觉得我在撒谎。越具体，老师越容易体谅。即使理由不是真的，也要编得很具体，才容易让对方相信。(CNS 007)

そうですね、はっきり説明しなければなりません。はっきり説明しないと、先生は私に理由がないと思う可能性があり、私はただ行きたくないではないかと、先生は私が嘘をついていると思う可能性が高いです。よりはっきり説明すれば、先生が理解してくれるでしょう。例えその理由が真実でなくても、相手を信じてもらうためには、非常に具体的説明しなければなりません。(筆者訳)

詳しい事由…あまり言わないですね。普通の場合、プライベートの話になれば、言いたくもないし、相手も、知りたくないと思います。たとえ親しいであったとしても、先生は先生で、私用についてはっきり言わない方がいいと思います。親友なら、先生と違いますので、同じ年齢層の人だから、特に非常に私的のものでなければ正直に言った方がいいと思います。(JNS011)

以上の発言から、CNSは「詳しい事由」が相手が誤解しないように、自分の事情について理解してもらうためのポジティブ・ポライトネス・ストラテジーと考えていることが多いのに対し、JNSはプライバシー侵害の理由で回避していることが多い。それは中国と日本の文化の差異の影響だと思われる。中国では、私用のプライベート度がそこまで高くなければ、その私用をほかの人に言う場合が多く、そのため、言わない方がおかしく思われる可能性が高い。一方、日本では、私用のプライベート度に関係せず、それを言い出したい傾向があるため、極親しい人しか言わないことも観察された。また、今回の結果から、CNS女性はCNS男性よりも「詳しい事由」に対する説明が長く、相手のフェイスを考えて、それに理解してもらうための説

明が観察される。一方、JNS女性は「私用のため」で断ることが多いが、JNS男性は「先約あり」という簡潔な理由で断ることがほとんどであることが分かった。

3.2 中国語話者日本語学習者のメールの特徴と言語転移

今回のJFLのメールは、CNSともJNSとも異なる形であることが確認された。まず、「親しい友人」の場合の中国語の場合において、CNSは、「挨拶」(3名, 20%), 「名乗り」(0名, 0%), 「導入」(1名, 6.7%), 「事情描写」(2名, 13.3%), 「遺憾」(3名, 20%)において使用頻度が低いと観察されるが、JFLは、いずれも使用頻度がCNSより高いと観察された(「挨拶」(9名, 60%), 「名乗り」(4名, 26.7%), 「導入」(6名, 40%), 「事情描写」(6名, 40%), 「遺憾」(8名, 53.3%)。それが日本語を勉強したための影響ではないかと考えるものの、日本語版メールにおいて、JNSの使用頻度は「挨拶」(4名, 26.7%), 「名乗り」(2名, 13.3%), 導入(11名, 73.3%), 事情描写(6名, 40%), 遺憾(3名, 20%)であるため、JFLは「挨拶」「導入」「遺憾」においてどちらとも異なることが分かった。

一方、親しい先生へのメールにおいて、JFLの中国語のメールは、CNSのメールにほとんどない「導入」(8名, 53.3%)「事情描写」(8名, 53.3%)「遺憾」(10名, 66.7%)が観察され、それ等の要素JNSの使用頻度(8名, 53.3%; 9名, 60%; 9名, 60%)に近いと思われる。一方、中国語の「依頼表現」でよく観察される「祝福」は、「断り表現」においてCNSも使わない(1名, 6.7%)が、JSLは5名(33.3%)であった。また、JSLが特有する「曖昧な事由+詳しい事由」という表現があり、曖昧な事由を自ら詳しく説明する様子も観察される(6名, 40%)。第2言語の作文産出における第1言語の関与、とくに第1言語の作文力との関連は深い(石橋, 2004)ため、学習者が中国語を参考にして日本語のものを書くことが多く(余, 2018)、学習者は日本で長期間滞在において自身の言語を変化しつつ、その言語は中国語的でもなく日本語的でもない、両方の影響も受けている中間言語になっている可能性が示唆された。

4. 今後の課題

以上のように、中国語と日本語の断り場面における電子メールの特徴を明らかにしたうえで、中国語母語話者・日本語学習者が書いた中国語メールは、中国語、日本語両方の影響を受けて、中国語メールとしても日本語のメールとしても不自然なところが見られた。その原因は、まず文化間の差異の存在、または在日時間によって文化や言語の混同であることが示唆された。加えてその結果には、男女間でも差が見られ、女性の間によく使われている断りのストラテジーも観察された。今後の計画としては、女性の中国語母語話者、中国語母語話者・日本語学習者、日本語母語話者を対象に、ジェンダー、文化の側面からそのメールの書き方の相違を明らかにする予定がある。それによって、中国語話者日本語学習者が中国語または日本語を運用する際に、日本語、中国語の影響を排除し、自分の構文により多くの注意を喚起できるようになること、および日本語教育および異文化コミュニケーション教育、また中間言語語用論研究の示唆となるものを提示したいと考える。

参考文献

- 石橋玲子 (2004). 第2言語の作文産出における第1言語の関与—第1言語の作文力との関連から— 茨城大学留学生センター紀要, 2, 1-12.
- 王玉明・聞芸 (2015). 電子メールによる依頼行動に関する日中対照研究—ディスコース・ポライトネス理論の観点から— 東アジアへの視点, 12, 53-59.
- 大友沙樹 (2009). 電子メールにおける依頼のストラテジー—日中対照の観点から— 国際文化研究, 15, 61-72.
- 李宜真 (2008). 依頼の言語行動に関する日中語対照研究—ポライトネスの観点から— 東北大学高等教育推進センター紀要, 3, 117-129.
- Selinker, L. (1972). *The Interlanguage*. International review of Applied Linguistics, 10, 3, 209-231.
- 余文龍 (2018). 学習者と母語話者の日本語の「良い文章」判断基準の差異—中国語話者中上級学習者を中心に— 2018年度異文化教育学会第39回大会発表抄録, 92-93.